

研究課題名	膵粘液性嚢胞腫瘍(MCN)の検証 ー多施設共同後ろ向き研究ー
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰
研究期間	2018年5月30日(倫理委員会承認後) ~ 2022年3月31日
対象者	1980年1月1日から2017年10月31日までに、広島大学病院消化器・代謝内科に通院または入院歴があり外科的切除後にMCNと診断された患者を対象とします。なお、疾患や病変部位などは特に限定しません。
意義・目的	<p>膵嚢胞性腫瘍は粘液性腫瘍と漿液性腫瘍に大別され、粘液性腫瘍には膵管内乳頭状粘液性腫瘍(Intraductal papillary mucinous neoplasm: IPMN)や膵粘液性嚢胞腫瘍(Mucinous cystic neoplasm: MCN)があり、漿液性腫瘍には膵漿液性嚢胞腫瘍(Serous cystic neoplasm: SCN)があります。MCNは2006年の国際診療ガイドラインの刊行と2012年の改訂によって世界的に広く認識され、診断と治療の指針について一定の方向性が示されました。MCNは粘液を産生し、病理学的に卵巣に存在する卵巣様間質が存在し、ほとんどが女性に発生します。放置すれば悪性になり得るため、診断された時点で手術適応とされ、完全に切除がされれば予後は良好であるとされています。</p> <p>日本膵臓学会は2007年に膵嚢胞性病変に対する4つのワーキンググループを組織し、その一つであるMCN予後調査研究チームのMCNの長期予後についての多施設共同後ろ向き研究を報告しました。その中でMCNは稀な疾患ではあるものの、予後良好な膵嚢胞性病変であり、全てのMCNは悪性化を防止するためには外科的切除をすべきであることを示しました。さらに、本邦では良性膵腫瘍に対し、開腹手術と比べ患者さんに侵襲の少ない腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術が2012年に保険収載されました。これに伴いMCNに対する腹腔鏡下手術も徐々に普及してきており、長期予後を含めた腹腔鏡下手術の妥当性を評価する必要があります。また術中の腫瘍損傷から腫瘍内容液が腹腔内に漏出した場合の長期予後やMCNの手術適応の妥当性など依然解明すべき部分は多いと考えられます。</p> <p>今回、MCNの臨床的特徴や切除後の長期予後のさらに詳細な解明を目的とし、本邦における多施設共同の後ろ向き症例集積を立案しました。本研究は日本膵臓学会・嚢胞性膵腫瘍委員会の主導で行われます。</p>
方法	<p>本研究は、全て診療録(カルテ)情報を転記して行います。</p> <p>カルテから転記する内容は①術前因子：年齢、性別、合併膵疾患、観察開始日(前医を含む)、術前経過観察期間、術前経過観察症例の手術適応、術前診断(MCN、膵管内乳頭状粘液性腫瘍(IPMN)、膵リンパ上皮嚢胞(LEC)、その他)、主占拠部位(膵頭部、膵体部、膵尾部)、実施画像検査((コンピューター断層撮影法(CT)、磁気共鳴断層撮影法(MRI)、超音波内視鏡検査(EUS))、画像所見(嚢胞最大径、壁在結節高、主膵管との交通)</p> <p>②術中因子：手術日、施行術式(膵頭十二指腸切除術、尾側膵切除術、その他)、方法(開腹、腹腔鏡下(開腹移行含む))、破裂・穿孔の有無</p>

③病理組織診断：診断名、TNM分類、ホルモンレセプター発現の有無（エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体）、腫瘍遺残の有無

④予後：生存の有無、最終生存確認日、再発の有無、再発確認日
です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

共同研究機関

以下の機関と共同で研究します。

九州大学、愛知医科大学、愛知県がんセンター中央病院、大阪大学、尾道総合病院、京都大学、杏林大学、熊本赤十字病院、国立がんセンター中央病院、国立がんセンター東病院、埼玉医科大学、順天堂大学、昭和大学、仙台市医療センター、千葉県がんセンター、手稲溪仁会病院、東海大学、東京大学、東京医科大学、東京医科歯科大学、東京女子医科大学、東北大学、日本医科大学、山形大学、和歌山県立医科大学（九州大学に情報を集め解析します）

試料・情報の管理責任者

九州大学大学院医学研究院・臨床医学部門臨床・腫瘍外科学分野 教授 中村 雅史

個人情報保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5192

広島大学病院消化器・代謝内科 助教

石井康隆

クリニカルスタッフ

河村良太

研究機関：広島大学